

くまざんだお

豊橋東田教会 〒440-0055 豊橋市前畑町 112 ☎0532-54-3435
ホームページ toyohashi-azumadakyokai.org 武井恵一牧師 080-3428-3200

2018年

4月号

4月22日発行

イラストは全て池谷陽子さんご提供

4月1日 復活節第一主日礼拝説教

「主の復活」武井 恵一牧師

コリントの信徒への手紙Ⅰ 15章 1～8節 320頁

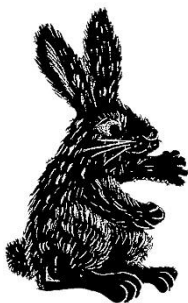
復活日、おめでとうございます。

✦イエス・キリストは、人間として最初に永遠の命に復活されました。これは、主イエスと、父なる神と、聖霊を信じる者に約束された現実で、この日に、この世で初めて、起こった出来事です。

先週の週報ではルカによる福音書24章1節から12節の聖書箇所を予告しましたが、今日はコリントの信徒への手紙Ⅰ 15章の1節～8節を採り上げました。お詫びし、訂正します。

✦「主イエスの復活」は、主イエスに起こったことを大きく超えて、人間世界・創られた全体の新しい在り方を現しています。

人間だれもが最も共通して関心を持つのは「自分自身」です。自分がいる立場や、周りの状況が気になるのはだれもが同じで、その延長線上に「自分の命」があり、自分自身が「生きている」意識が強いほど命についての関心は高いと見られます。



✦その意味で言えば、自分の人生をしっかりと見つちつ生きている人は、「自分の命」に関心があり、自分の生涯、まだ見えていない将来に関心をお持ちです。

キリスト教はほとんど知らず、成り行きで今日は教会にいらした方もおられるでしょう。歓迎いたします。偶然の重なりとはいえ、「復活祭」にぶつかったのを単に偶然だと思はないで聞いてください。

✦わたしは今、本気で——あなたにだけではなく、ここにおられる皆様に『命』と『復活』のことをお話ししています。

今日読んでいる聖書の箇所は、パウロというキリスト教では有名なリーダーでありローマ市民・ユダヤ人である人の手紙です。それも、「死んでしまった命が、復活し、生き続ける」。医学的にはあり得ないことを採り上げている手紙です。

❖キリスト教というと、まず、イエス・キリストで、そのことなら、「私はノーサンキュー」と思う方は、パウロと言う人物が元はイエス・キリストに敵対活動していた人ということも、ご存知ないと思いますので、まず、紹介しておきます。彼は冷静な目で出来事や人物を捉え——多くの人に評価されている人物です。そして、今日のテーマについて言えば、「復活」という信じられないこと——普通ならマユツバのホラ話しでしかないと思われる出来事を、自分で体験し、確信して、私たちに伝えた特別な人です。

ここで、まず、パウロが「福音」と言っている言葉を言い換え、分かりやすくします。日本語ですが、ローマの言葉ギリシア語、「ユーアンゲリオン」がもと。

❖しばらく前、若者たちに世界中で言われる言葉で「良いこと＝喜び」が「やってくる＝訪れる」、これを日本では「福——よろこび」。「音ズレ——訪れ＝音」として今は日本語になっている言葉です。

ここでは今日の聖書コリントの信徒への手紙一、新約聖書320頁の8行目からもう一度読みます。

コリントの信徒への手紙 I 15章 3～6節

³最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりのわたしたちの罪のために死んだこと、⁴葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりの三日目に復活したこと、⁵ケファに現れ、その後十二人に現れたことです。

次の6節が、歴史的に注目された言葉です。

⁶次いで、五百人以上もの兄弟たちに同時に現れました。そのうちの何人かは既に眠りについたり、大部分は今なお生き残っています。

❖これは、「復活の現実的なポイント」です。この言葉が歴史的に注目されているのは、パウロが、21世紀でも通用する法律的ポイントをズバリ指摘していること。



❖つまり、場所が離れ、時代が違っても、「その現場・その時間」をたどり、追及すれば、証拠が得られると言っているからです。場所と時を正確に言えば、その言葉は現実に通ずる「証言」とされます。

だれも公に言われたこの証言を無視するわけにはいきません。——人々が認めている法律のルール。それが認められなければ、ルール違反です。

コリントの信徒への手紙 I 15章 7～8節

⁷次いで、ヤコブに現れ、その後すべての使徒に現れ、⁸そして最後に、月足らずで生まれたようなわたしにも現れました。

❖言葉の最後に、自分自身が体験したこと——が、ナマの証言としての有効性を示しています。そして、パウロは更に、自分たちキリスト教に敵対し、彼自身が行っていた事実を自白した。

コリントの信徒への手紙 I 15章 9節

⁹わたしは、神の教会を迫害したのですから、使徒たちの中でもいちばん小さな者であり、使徒と呼ばれる値打ちのない者です。

❖彼は、キリスト教を言葉で批判してだけでなく、具体的に逮捕する権限を自分の物にし、実際に「キリストを信じる者」を捕らえ、牢獄に入れる権利を受け、実力行使をして、敵の親玉であるイエス・キリストにぶつかり、打たれたのです。

❖パウロ自身が「嘘だ、まやかした」と否定した復活のイエス・キリストが現れて、彼を倒した。聖書の記事、「使徒言行録9章1節から9節」を読みます。新約聖書229頁下の段から230頁までです。当時、パウロは「サウロ」と名乗っていました。

使徒言行録9章 1～9節

¹さて、サウロはなおも主の弟子たちを脅迫し、殺そうと意気込んで、大祭司のところへ行き、
²ダマスコの諸会堂あての手紙を求めた。それは、この道に従う者を見つけ出したら、男女を問わず縛り上げ、エルサレムに連行するためであった。
³ところが、サウロが旅をしてダマスコに近づいたとき、突然、天からの光が彼の周りを照らした。
⁴サウロは地に倒れ、「サウル、サウル、なぜ、わたしを迫害するのか」と呼びかける声を聞いた。
⁵「主よ、あなたはどなたですか」と言うと、答えがあった。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。
⁶起きて町に入れ。そうすれば、あなたのなすべきことが知らされる。」
⁷同行していた人たちは、声は聞こえても、だれの姿も見えないので、ものも言えず立っていた。
⁸サウロは地面から起き上がり、目を開けたが、何も見えなかった。人々は彼の手を引いてダマスコに連れて行った。
⁹サウロは三日間、目が見えず、食べも飲みもしなかった。

✦ここから、サウル＝パウロはイエス・キリストを信じ、イエス・キリストを人々に伝える者となって、すぐ活動を始め、今の手紙に至っています。

なお、サウロが名前を「パウロ」としたのは、新約聖書238頁上の段9節からです。



✦パウロをはじめ、イエス・キリストを信じる者は「人間の復活を信じ」ます。そして、『復活』は、ただ生き返るだけではありません。肉体である身体は「霊の身体」となり、いつまでも死ぬことがない身体となって永遠に生きます。

✦パウロの言葉によって、また、キリスト教の伝道によって「復活」は当時のローマ世界に広められ、多くの人々が洗礼を受け、キリスト教にはいりました。中には、既に死んだ人への洗礼を求め、自分がその死んだ人の身代わりに洗礼を受ける、そのようなことも数多く行われました。

✦先ほどの手紙の後半には、そのことが記されています。

コリントの信徒への手紙Ⅰ 15章29節

²⁹そうでなければ、死者のために洗礼を受ける人たちは、何をしようとするのか。死者が決して復活しないのなら、なぜ死者のために洗礼など受けるのですか。

と書いています。

✦ただ、「死者への洗礼は、一時期だけ」で、その後は行われず、現在も行われていません、とハッキリ注意いたします。「死んだ人間」は、残念ながら彼自身で「神様を信じ、イエス・キリストをわたしたちの主と信じます」と告白することができません。

死んだ人間は、死ぬと同時に「神様のもとに行き、その人自身で父・子・聖霊の神様に向かうのです。人間世界の者は、届きません。」生きている人間は「その人のために、神様に祈る」ことしかできないと定められています。

✦この現実からすると、「生きている人間」が、命をもつて『神様を信じ、イエス・キリストを「主と告白する」——神様と、教会の人々の前で告白する』——「洗礼」の聖礼典は、欠かせないのです。

洗礼は単に卒業式のような儀式ではなく、また、「復活の命——永遠に生きる命を与えられる」だけではありません。同じように、大切なこ

ととして、「洗礼は、主イエスを告白する人間に聖霊を授ける、洗礼を受けた人間には聖霊が宿る——人間の力だけではできない聖礼典が、同時に行われる」儀式です。他にはありえない神の聖礼典が行われる。

❖「でも……、儀式はそこに参加して、水とかで授けられても、実際に『永遠の命』とか『聖霊』は実感できないのではないですか」と思った人もいるでしょう。確かに、そう言えます。それは、肉体の身体が死んでも、霊の身体で「神様の御国に迎えられる」のが、実感できないことと同じかも知れません。

ところがドッコイです。洗礼を受けると、ひっぱたかれて「痛い！」と感じるような実感は確かにありません。実感が有ったら逆に大変です。

❖洗礼は「水」を用い、頭に「滴礼」として水を載せられるか、全身に浴びるか、水の中に全身を浸すかしますが、与えられるのは「水」だけではない。「聖霊」が、同時に与えられます。但し、もちろん聖霊は、目に見えません。でも、見えるものが伴っている。

何が見えるのか？

それは、洗礼を受けた人間が、その人間自身、つまり「自分」を見る、見るだけではなく「知る」。否応なしに「覚え、受けとめる」ことが起こります。ほとんどの場合は、そのような自覚を意識したりしないで、ある必要な期間が過ぎてから「あれっ、わたしはこんなことができている」とか、周りの人から「あなたは変わった」と言われたりする。

❖でも、意志が堅固な人、言い換えれば頑固な方々は、あまり変わらないでしょう。でも、ここが肝、肝心なところで「あれ？ 何も変わっていない」とか、「かえって悪くなった」とか自覚できる。これは、無理にでも自覚するべきです。

そこから「変わる、変えられる」ことが意識できます。そこで「意識する」ことが大事です。それは、授けられた聖霊を無視していた本人〔あなた〕のスイッチを「オン」にすることですから。

どれほど優れた「ヒューマノイド・ロボット」でも、電源・意志を「オン」にしなければタダの置物。

但し、自分で「こんな人間に変わろう」としない方がいいです、とご注意します。少し、それはオカシイと思うでしょうが、与えられた「聖霊」をこそ、ここで求める。「聖霊の、御心——あなたを最善のあり方にこそ向ける。聖霊に祈り、願う」ことが、一番簡単です。

❖これは、どこから始めたらいいいとかはありませんが、今、「復活」を中心にしていましたので、「復活の命を求める」ことからはどうでしょうか。私自身は「自分は、実際愚かで、信仰の足りない人間だ」と、自覚し、求めています。

だから「確かに、生かされている」と、自覚します。これを、きっかけにしてください。

祈り 讚美歌 (21) 493「慈しみ深い」



新共同訳聖書

〔コリントの信徒への手紙Ⅰ 15章1～8節〕

¹兄弟たち、わたしがあなたがたに告げ知らせた福音を、ここでもう一度知らせます。これは、あなたがたが受け入れ、生活のよりどころとしている福音にほかなりません。²どんな言葉でわたしが福音を告げ知らせたか、しっかり覚えていれば、あなたがたはこの福音によって救われます。さもないと、あなたがたが信じたこと自体が、無駄になってしまうでしょう。³最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりわたしたちの罪のために死んだこと、⁴葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと、⁵ケファに現れ、その後十二人に現れたことです。⁶次いで、五百人以上もの兄弟たちに同時に現れました。そのうちの何人かは既に眠りについたにしろ、大部分は今なお生き残っています。⁷次いで、ヤコブに現れ、その後すべての使徒に現れ、⁸そして最後に、月足らずで生まれたようなわたしにも現れました。

教文館 日本語対訳ギリシア語聖書

川端由喜男訳 永田竹司監修

〔コリントの信徒への手紙Ⅰ 15章1～8節〕

¹さて、兄弟たちよ、あなた方にわたしが宣べ伝えたところの福音をあなた方にわたしは知らせる。それ（その福音）はまた、あなた方も受けたそのうちに、また、あなた方が立っている。²それによって、また、あなた方は救われる。どのような言葉であなた方にわたしが宣べ伝えたかを、もしあなた方が堅持するならば、——むなくあなた方が信じたのでなければ。さもないと、あなた方信じたこと自体が無駄になってしまうでしょう。³なぜなら、また、わたしも受けたことを、第一のこと（複）としてあなた方にわたしは伝えた。すなわち、キリストは聖書（複）に従ってわたしたちの罪（複）のために死んだ（こと）。⁴そして、彼は葬られたこと。そして、聖書（複）に従って三日目に、彼は復活させられたこと。⁵また、ケパに彼は現れた、次に十二人に（現れた）こと。⁶その後、五百人以上の兄弟たちに彼は現れた。同時に、そのうちの多くの者たちは現在まで残っている。しかし、幾人かは眠りについた。⁷その後、ヤコブに彼は現れた。次に、すべての使徒たちに（現れた）、⁸しかし、すべての終りに、早産児のようなわたしにも彼は現れた。